

《横光利一術語集》

「郊外」(中野上町)

中井 祐 希

秋が深くなつて来た。彼は長らく望んでゐた郊外へ變つて来た。

(「慄へる薔薇」『新小説』一九二五・一)

習作期から新感覺派時代の横光利一の作品を概観すれば、農村から都市へといつた緩やかな推移が読み取れる。例えば、磯貝英夫は「頭ならびに腹」(『文芸時代』一九二四・一〇)を「農村的なものと都市的なものとを同時に含むことによつて、ちようど、その両者の分水嶺をなしている」作品だと位置づけ(「一つの分水嶺」『日本文学』一九七三・二)、田口律男は都市を舞台とした「街」ものと新感覺派文学との関係性を説明している(「横光利一「街の底」論」『都市テクスト論序説』松籟社、二〇〇六・二)。

なるほど、たしかに現在の横光利一研究において農村と都市は有効なテーマであろう。しかし、新感覺派と称されていつた時期に横光は、郊外である中野上町(現在のの中野区)に居

を構えていたことが気にかかる(中野上町での生活は一九二四年九月から一九二五年一〇月まで)。「去年は街の真中に住んでみた。今年は郊外に住んでみた」(『青年』『大阪朝日新聞』一九二五・八・一一)と記しているように、『文芸時代』を創刊し数多くの「街」ものを発表してきた時期に横光は都市ではなく、郊外に住んでいたのである。

同時代における郊外は、東京中心部の補完機能として位置づけられてきた。主な理由としては、①東京市内の人口増による住宅地の開拓の必要性(『東京市役所編』『東京市域拡張史』東京市役所、一九三四・一〇、54頁)、②都市部での貧困問題や税金苦(小川囃南「大都の生活(12)」『大阪毎日新聞』一九一六・九・三〇)、③自然や健康志向の高まり(「郊外生活者の感想」『中央公論』「都市と田園」号、一九二一・七)などである。さらに拍車をかけたのは関東大震災であった。中野の震災被害が比較的軽微だったため「震災以後、東京市中心地域の住民は一挙に周辺部に流出し、東京独特の「郊外」(中略)がとくに西部方面に開けていつたが、中野区地域はその中心の一つとなった」(安藤良雄「中野の四〇〇年」『中野区民生活史第一巻』中野区民生活史編集委員会編、中野区、一九八二・九、12頁)。

横光のこの郊外生活をもとにした作品に「慄へる薔薇」がある。郊外へ移住する前、画家である良人は「壺の中で一輪

きりりと真赤に咲いてゐた」薔薇を写生していた。郊外に移住後は、庭に咲いていた薔薇の「何の意味もない黙然とした感興が色彩の華やかなそれだけに淋しくて面白」く感じ絵画を完成させる。しかし、どちらの絵画についても結局それが妻との口論の遠因となってしまう。その後、意気消沈した良人が見出したのは、庭に埋もれていた石であった。

彼には今は何物よりその静に動かぬ石が心を牽いた。彼はその石を見詰めてゐると、街上で無数に跳ぬ廻つてゐる人々が新鮮に跳ねれば跳ねる程だんだん分裂しながら無生物に近づいてゐるやうに思はれ出した。さうしてそれとは全く反対に此の動かぬ石は、そのやうに静かであればあるほど一途に深く澄み渡つてひとり新鮮に延びるべきものへ向つて延びてゐるやうな感じさへし始めた。彼はその石を明日から画きかけた。

良人はこの石について、「一途に深く澄み渡つてひとり新鮮に延びるべきものへ向つて延びてゐるやう」に感じ、明日から描こうと決意する。またその静かな石と対比させ、都市での群衆が「無生物に近づいてゐる」という認識に至る。良人は外部、つまり郊外の視点から都市部の人々を捉え直そうとしている。

ところで、「慄へる薔薇」の翌月に横光は「感覺活動」(『文芸時代』一九二五・二)を発表している。そこで横光は「新

感覺派の感覺的表徴とは、一言で云ふと自然の外相を剥奪し、物自体に躍り込む主観の直感的觸発物」と述べている。川端康成は横光文学の特徴について「万物を直観して全てを生命化してゐる。対象に個性的な、また、捉へた瞬間の特殊な状態に適當な、生命を与へてゐる」(『新進作家の傾向解説』『文芸時代』一九二五・一)と評している。

「慄へる薔薇」の良人は、当初「真赤に咲いてゐた」薔薇を写生していたが、郊外に転居後、徐々に知覚・感覺・主観を動員して対象を描こうとしていく。このような良人の認識や芸術観は「感覺活動」で提出した問題とも通じているだろう。ヴァイクトル・シクロフスキーが「生の感覺を回復し、事物を意識せんがために、石を石らしくするために、芸術と名づけられるものが存在するのだ」(『方法としての芸術』『散文の理論』水野忠夫訳、せりか書房、一九七一・六、15頁)と宣言したように、「無生物」である石を描こうとする「慄へる薔薇」の良人はまさに「感覺活動」の実践者なのである。このように考えていくと、一九二四年から一九二五年にかけての郊外生活は、横光に都市(の人々)を相対化する契機を与え、加えて横光の新感覺派理論の一端を担う重要なトピクスだといえる。